

令和 6 年度第 4 回 寝屋川市男女共同参画審議会 議事要旨	
日時：令和 7 年 2 月 12 日(水)午前 10 時～12 時	場所：寝屋川市役所議会棟 4 階 第一委員会室
出席委員：大束委員長、藤田副委員長、加来委員、川口委員、坂口委員、岸本委員、 下田委員、横藤田委員、 計 8 名 欠席委員：森川委員、濱田委員、蔵本委員、鈴木委員、百井委員	
事務局（担当課）：危機管理部 人権・男女共同参画課	傍聴：0 人
1. 「第 5 期ねやがわ男女共同参画プラン」の具体的取組に対する令和 6 年度実績・評価、 令和 7 年度目標についてグループ討議で審議 【A グループ】（大束委員長、川口委員、下田委員、横藤田委員） ①基本目標Ⅰ「あらゆる分野における女性の活躍推進」 主な意見 ・団体に所属する女性を増やすことが必要である。 ・昇任資格を取得したくない理由を含めアンケートを取る。 ・課題には何人女性を取るなど決める。 ・役職者でなくてもよいと徹底する。 ・各委員会での委員長は男性が多いので、女性委員長に比率をあげてみればよいのではない か。 ・世代間格差を感じている。 ・男女とも担い手不足で、特定の人に負担がかかっている。 ・自治会の加入率低下が原因。 ・申込者に管理職になれない理由をヒアリングする。 ・女性職員の割合は男性より多いが、正規職員の割合が低いため、管理職を目指す人が少ない のでは。 ・教頭に女性が少ないのはなぜなのか。 ・自治会での副会長は女性が多く、実働で活躍されている方もいるが、表立って発言するの は男性の会長が多い。 ・地域協働協議会は各自治会長が役員として参加しているのが現状である。 ・広報誌に掲載をするだけで、担い手の固定化に繋がるのか。 ・交流会の後の活動はしているのか。 ・広報誌への掲載以外の P R をしなければ、子育て世代に繋がらないのでは。 ・配架や掲示以外を考える必要がある。 ・人事異動後がなぜその評価になるのか。 ・フレックスタイム制の利用率が 92% に到達していることに対して評価できる。 ・ハラスメントに対して本当に男女共同参画からの視点は無いのかが課題である。 ・ハラスメントに課題が無いのがなぜか。出てきた案件を対応しているだけなのか。 ・ファミリーサポートセンター事業の依頼数は増えているが、提供会員登録はいても実際の 活動を行う提供者は少ないのが現状である。 ・男性の参加者が少ないのは周知だけが課題なのか。 ・育児休暇中の男性の孤立を避けるため、対象者のコミュニティを作るのはどうか。 ②基本目標Ⅱ「暮らしの安全と安心の確保」 主な意見 ・D V の家庭は子どもにとっても悪く心理的虐待に値する。D V は自ら通報できないため、 周りの気付きが必要。 ・正しい知識を伝える必要があるため、性教育の見直しを行う。 ・相談できる人がいない割合について、実績はどうなったか。 ・子どものみならず性暴力はなかなか見つからず、自らの申し出も少ないため、専門の相談 員を増やす。 ・自分から発信できるような環境づくりを行う。CAP、こどもの人権 110 番など。 ・男女共同参画で男性と女性が行うと混同しているのではないか。 ・スマホの普及によって性に対するハードルが下がっている。	

- ・健康相談や健康教室の男女別参加人数は。
- ・男性の健康意識の向上に向けた取り組みが必要。
- ・男性の参加者が少ないのはなぜか。
- ・市から届く手紙等を父親本人宛に送付はできないのか。
- ・父親の参加を勧めるための開催方法の工夫とは何か。
- ・すぐに就職を希望する生徒が少ないことが、課題なのか。また男女別の状況把握を。
- ・権利擁護事案が今後増える傾向にある中で身近に相談できる包括支援センターの職員を増やし、対応できるよう研修の場を提供するべきである。
- ・外国人はどのくらいの利用者がいて、どのように情報収集を行っているかヒアリングが必要である。
- ・入国審査の時に寝屋川市の取組等まとめたリーフレット等を渡せないか。
- ・相談がLGBTQ+の人達への対応になっているのか。
- ・道徳の時間が一番大切であるため、授業時間を増やせないのならば内容の充実を図るべきである。
- ・継続的に教育が必要である。義務教育で一貫した教育を行う。
- ・男性と女性がそれぞれできることがあると思うので、防災は男性と決めつけない。
- ・防災について、女性委員の参画は。
- ・避難所などでの女性のプライバシー確保はできるのか。
- ・女性講師による、女性の視点から見た講演等を行う。
- ・一斉防災訓練での女性の視点に立った運営ができたのか。

③基本目標Ⅲ「男女共同参画を基盤とした文化の浸透」

主な意見

- ・活用していない対象者への調査が必要なのではないか。
- ・男性と女性の違いについてどう考えているのか意見交換を行う。
- ・思い込みや偏見はないのか。
- ・寝屋川リーダーズと男女共同参画の連携は。

【Bグループ】（藤田副委員長、加来委員、坂口委員、岸本委員）

①基本目標Ⅰ「あらゆる分野における女性の活躍推進」

主な意見

- ・審議会の成果の一部などを公表し、女性にも関心を持ってもらう。
- ・実績値が上がらない予想される理由を選択回答にあげて統計を取る。
- ・目標設定や制度見直しに加え、意欲喚起の仕組みを1on1ミーティングや周知方法を工夫する。
- ・職場環境における協力体制の整備はあるのか。
- ・次の研修対象に向け、参加者の研修の感想を共有。
- ・外部研修は、フィードバックし社内で共有を行うなど、女性のキャリア意識の醸成。
- ・教頭の仕事の明確化や、複数人で担当できるようにする。
- ・各所管課や民生委員、ソーシャルワーカーなどと協力体制が必要。
- ・元気UPのような取組（合唱団など結成し、各施設で披露）。
- ・オンラインの交流を行う。
- ・ゲームを行ったり、共通の悩み事でグループを作って見てはどうか。
- ・イベントでお菓子が配られたり、遊び場が設けられていたり、子育て世代が参加しやすい広間を作る。
- ・異動後のサポートや配慮はあるのか。女性一人の取組など働きにくい、休みにくいなどはないか。
- ・利用者の減少は悪化と評価されるのか。目指す姿は就労困難者の減少ではないのか。
- ・男性の相談者が多いように思うが、そのサポート体制はあるのか。
- ・ネットワークの拡大と事例の創出、発信を行い、支援増につなげる。
- ・身近なところで相談できる場所はないのか。
- ・育休の代替に正規職員を入れることは評価できるが、性別はどのようになっているのか。
- ・介護相談に関してはヤングケアラーの問題もあるので、若い人が相談できる場所もあったほうが良いのではないか。
- ・男性介護者への支援として、総合相談で男性介護者の悩みを入れるなど必要。

②基本目標Ⅱ「暮らしの安全と安心の確保」

主な意見

- ・起きてからの対策ではなく、起きないようにするための打ち手が必要であって、改善が周知だけでよいのか。
- ・展示を行っているふらっと ねやがわにまで行かせるために、駅などでポスター掲示の協力や、インスタでPRなど行う。
- ・DVリーフレットを女性トイレ同様に、自覚や認識を持たせる理由として男性トイレにも設置をする。
- ・本庁の女性トイレだけでなく、駅などの多くの人が利用するところに設置の方がよいのではないのか。
- ・外出先で目に触れるように、薬局や各店舗にポスター等の貼紙を設置する。
- ・実施回数ではなく、利用者数を提示してほしい。
- ・セミナーの参加者は女性が比較的多いが、男性にも啓発を行うべきではないのか。
- ・子宮がんの無料クーポン配布は評価されるポイントである。他にも市で無料がん検診を行っているのなら、特に高齢者向けのセミナー等で声掛けを行ったほうが、本人にとっても市にとっても良いのではないのか。
- ・体験談や受診のススメを関連サイトにアップする。
- ・実績と男女比率、偏りがあるのであればそれに対する課題等を出すべきではないのか。
- ・男性の参加者が少ないことが課題で時間帯を上げているが、指導者も男性が少ないので、内容そのものが男性向きではないのが原因ではないのか。
- ・講師の人手不足に対する改善点があげられていない。
- ・相談窓口の設置や、ゲートキーパー養成に加え、自殺予防の取組を社会に広く周知を行う。
- ・課題、改善、目標の一貫性がない。
- ・シルバー人材の性別は。
- ・外国人の方々が市民として生活、活躍できるようにしたり、市民事業や避難訓練などにも参加してもらえるように促す。
- ・多様性と言う観点から、団体交流、高齢者関係の課とも協力し合い、イベントなどを行う。
- ・女性の必要なものが手に入る施設を発信。女性だけでなく、こどもや外国人についても同様に。
- ・リアルな意見とは何か。女性の視点の重要性は市民の多様な重要性でもあることから、今後、市民活動振興室と連携を行い、様々な教室や講座で発信していったほしい。

③基本目標Ⅲ「男女共同参画を基盤とした文化の浸透」

主な意見

- ・展示などは巡回したり、報告書など冊子など資料としてまとめてはどうか。
- ・女性の理系進路選択のセミナーなので、中高と協力を行って実施してもよいのではないのか。
- ・タイトルから対象を絞り込みすぎではないのか。
- ・同一人物が貸出希望を行っていたら、効果は低いのではないのか。
- ・教職員対象の人権研修は引き続き行うべきである。
- ・課題改善点はなしと言い切れるのか。例えば、チラシの見直しや保護者へダイレクトにアプローチを行うなど。
- ・芸術祭やミュージックデーは男女の問題ではなく外国人、障害者など様々な人が参加できるイベントとして活用するべきではないのか。(上記の人たちにもジェンダーの問題はある)
- ・男女やジェンダーの問題は、外国人の問題、差別の問題、メンタルの問題などとも関わってくるので、各課所管課と協力が必要。
- ・ミモザの花などを職員が身に付けたりすることで、周知につながるのではないのか。
- ・国際女性デーなので、国際支援センターと協力しながら進めるとよいのではないのか。

3.「その他」

連絡事項